

シアナミド液剤による無加温栽培「ピオーネ」の着色向上と収穫期前進化

ブドウ「ピオーネ」は種なし栽培に適し収益性も高く、盆前の高需要期に収穫できるよう無加温栽培が行われていますが、春季の気温条件により開花が遅れたり、夏季の高温で着色が遅れるなどして、盆前出荷ができないことがあり問題となっています。そこで、休眠打破剤であるシアナミド液剤の散布回数や散布時期による発芽、開花、果実品質への効果を解明し、収穫期を前進化させる技術開発を行いました。

☆ 技術の概要

1. 2月中下旬にフィルム被覆する場合、シアナミド液剤(CX-10)の散布時期は1月中旬で効果が高く、2月中旬では効果が低く、散布回数は1回で十分であることが分かりました。
2. CX-10を1月中旬に散布することで、無散布と比較し発芽期が10日程度、開花盛期および収穫盛期が1週間程度早くなります。
3. 散布により、果房重、糖度および酒石酸含量に差は見られませんが、果皮色の色票(カラーチャート)値が高くなり、紫黒色の濃い果房になります(図1)。
4. 試験結果では、高需要期である8月上旬までの収穫率が高くなり、粗収益は無散布に比べて22万円/10a程度増加します(図2)。



図1 シアナミド液剤の散布効果
上段写真：着色期の6月中旬
下段写真：収穫時の8月上旬

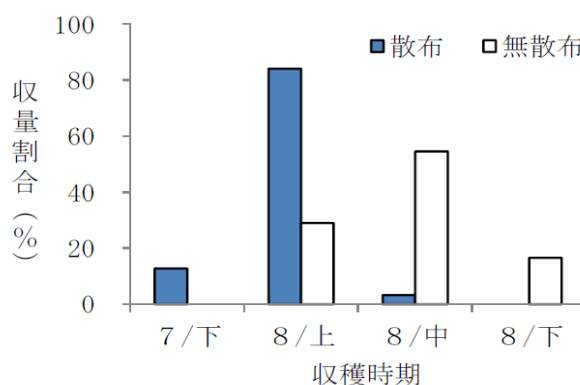


図2 時期別収穫率の比較(平成24年~26年)

☆ 活用面での留意点

1. シアナミド液剤の散布により発芽が早まることから、霜よけ対策を行う必要があります。
2. 前年に樹勢低下が認められた樹では、芽枯れが発生することがあるので散布を控えます。
3. 詳細については、鹿児島県農業開発総合センター(電話: 099-245-1114)にお問い合わせ下さい。

(農研機構 果樹茶業研究部門 企画管理部 果樹連携調整役 和田 雅人)